

## 清流のほとり

令和8年5月1日(金)発行

園長 露木 美江

寄 松田



カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです！

## ラッキーの死をとおして～子どもたちの熱い思い～

春休みに、悲しいできごとがありました。

20年以上、子どもたちを見守ってくれたカメのラッキーが、冬眠から目を覚まさないまま、天国へ旅立ちました。新学期が始まり年長児に話したところ、「どうして死んじゃったのかな」「葉っぱがぬれててお腹が痛くなっちゃったのかな」「お墓を作りたい」「看板も作ろう！」と次々とラッキーに対する熱い思いがあふれてきました。

話し合いは翌日も行われました。「お墓をどこに作るか」です。「みんなが踏まない所」「ふわちゃん(うさぎも以前飼育していました)がいた小屋の所」「畑」・・・話し合いは続き、時間は降園時間に迫っています。でも担任は「今からどこにするか見に行こう」と言い、子どもたちが命を大切にする心を育む支援を進めていきます。(時間は大丈夫かな?)こちらの心配をよそに、もとうさぎ小屋を見に行きます。「ここ掘れるかな」「固そうだね」「じゃあ今度は畑だね」・・・畑に向かうと「柔らかくていいね」「ここにしよう」みんなが納得してお墓の場所が決まり、降園時間にも間に合いました。

翌日はお墓作りです。「お墓参りをしたい」と言っていた年中児も一緒にやってきて、ほし組のお墓作りを真剣に見ています。やりたい気持ちを抑えて応援に徹します。実は担任2人は事前に話し合い、今回は年長児を立てて年中児は応援に回ろうと見事な連携をとっていたのです。何とか一生懸命力を入れますがなかなか掘れません。そこへ大きなスコップを持った早野さんと三川さんが現れました。「あれを貸してもらおう」「重たい」「じゃあ3人ずつやろう」と自然に友達と協力する姿が見られます。やっと大きな穴が掘れました。「寒いから落ち葉も入れてあげよう」「掘られたら大変！」と冬眠で使っていた落ち葉を入れたり、大きな石を置いたりしていました。次の日、心を込めてメッセージを書いた看板を立てて、4日間にわたったラッキーのお墓作りは終わりました。実は、看板立ては子どもたちが戻った後、運転手さんが動かないように立て直してくれたのです。担任2人の事前の連携、そして運転手さんの影の援助、そのような見えない支援は、さらに子どもたちのやる気を引き出し、自分たちの力でできた!という達成感につながっていきます。

幼稚園には学びの教材があふれています。それを教師がしっかりととらえられるかどうかで、子どもたちの学びの場が広がったり、失われたりしていきます。春休み中のできごとで時間もたっていたことから、新学期まで待たずに職員でお墓を作ろうとしました。しかし、担任から話を聞いた子どもたちは自分事として真剣に向き合い、友達と一緒に考えながら1つ1つ決めていきました。

今後もさまざまな学びを促す場を見逃さずにていねいにかかわっていきます。

## 初めての給食 ～みんなで食べるとおいしいね～

入園して1か月・・・園バスに乗る時には、寂しくて泣いていた子も園庭で泳いでいるこいのぼりに迎えられて、自分から保育室に入ります。3歳児は初めての給食で心配しましたが、楽しい雰囲気の中で「おいしいね」と言いながら一生懸命食べています。泥んこになって思い切り遊んだ後のみんなで食べる給食は格別なようです。お洗濯大変ですがよろしくお願いします。



ちなみに赤いカラー帽子はうさぎ組です



